

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

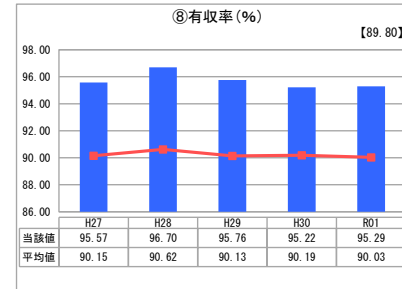
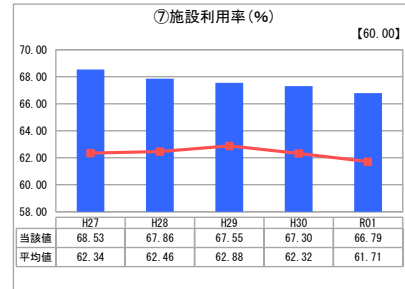
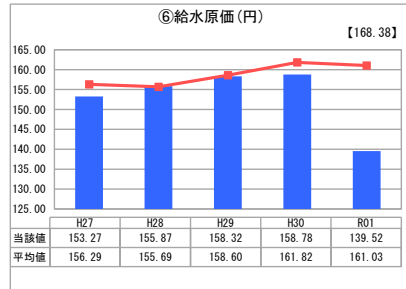
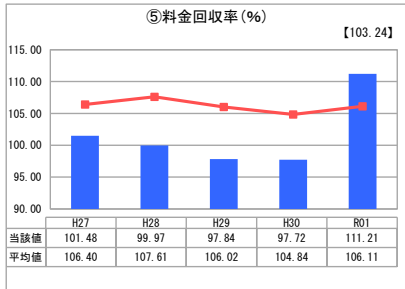
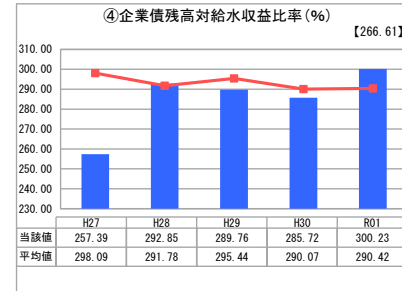
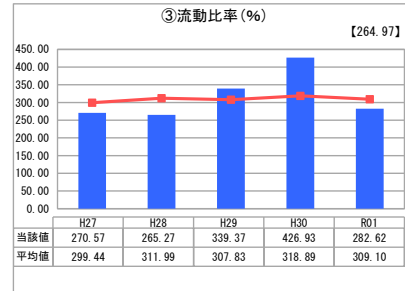
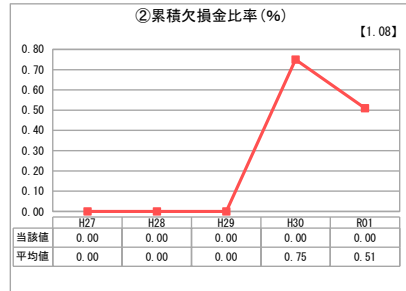
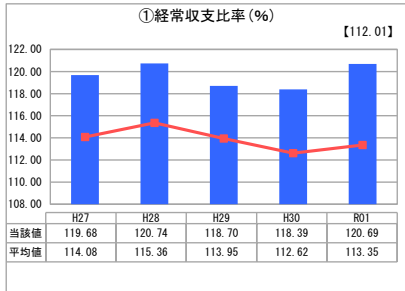
兵庫県 加古川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	63.64	96.72	2,486	

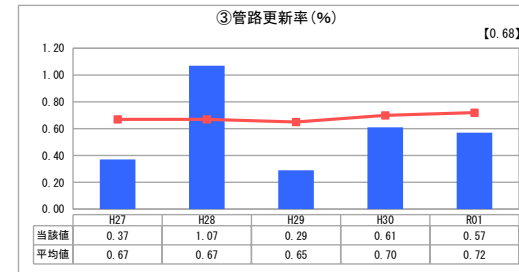
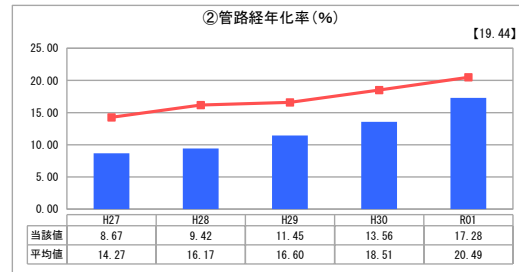
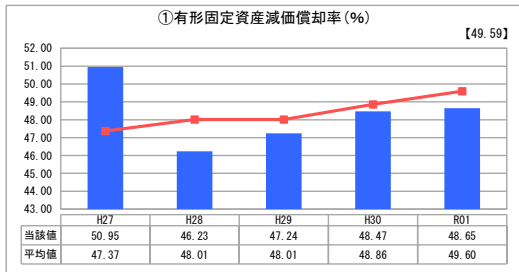
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
264,364	138.48	1,909.04
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
254,892	116.83	2,181.73

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
[ ]	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ③流動比率  
令和元年度は未払金が多いため前年度と比べ数値は低下(悪化)している。
- ※未払金相当分の現金も増加しているが割合として低下
- ④企業債残高対給水収益比率  
令和元年度に浄水・配水施設の大規模更新工事が完了し、それに伴う企業債の借入れがあったため、数値が上昇(悪化)している。今後、施設の更新需要の増加に伴う企業債発行額により指標が上昇(悪化)することが予想される。
- ⑤料金回収率  
給水原価の算定方法を変更したため数値が大きく変動している。令和元年度より、給水原価の算出において、経常費用から付帯事業である臭水処理受託収益を新たに控除することとした。
- ⑦施設利用率  
平均値を上回っているが、給水量の減少を受けて年々低下(悪化)傾向にある。加古川市のみならず、水需要(給水量)の減少はいずれの事業体も喫緊の課題であり、最適な施設規模や効率的な施設利用を考える必要がある。
- ⑧有収率  
漏水調査を積極的に取り組んでいることから、全国平均・類似団体平均と比べ高い(良い)水準を保っている。引き続き漏水調査を積極的に行い、今後も高い水準を維持していく。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
全国平均・類似団体平均の動向と同じで、数値は上昇(悪化)しており、施設等の老朽化が進み減価償却が進んでいる。
- ②管路経年化率  
全国平均・類似団体平均の動向と同じで、数値は上昇(悪化)している。
- ③管路更新率  
全国平均・類似団体平均をより下回っている(悪い値になっている)。事業の進捗により年度間で差があるものの、平成30年度に策定した「老朽管更新(耐震化)計画」に基づき事業費の平準化を図りつつ管路更新を行っていく。

### 全体総括

経営の健全性・効率性を示す指標については、概ね良好な数値となっているが、施設利用率の数値が減少するに、水需要が減少しており、今後も水需要減少に伴い収益が減少していくことが懸念される。また、老朽化の状況を示す指標からわかるように、管路をはじめとする施設の老朽化が進んでいる。

このような中、平成30年度に策定した中長期的な財政計画である「アセットマネジメント」及び加古川市の水道事業の基本方針である「加古川市水道ビジョン2028」等に基づき、将来の水需要を踏まえた中長期的な視点での施設の計画的な更新と更新費用の平準化を行い、持続可能な水道事業の経営となるよう努めていく。